

冬春期のパイプハウスを利用したブロッコリーの早出し栽培

福島県農業総合センター 作物園芸部野菜科

部門名 野菜—ブロッコリー—作型・栽培型

担当者 小林智之、新野美佐子、島貫春香

I 新技術の解説

1 要旨

本県におけるブロッコリーの主要な作型である春季の露地栽培は、5月下旬から6月にかけて収穫作業が集中する。そこで、夏秋品目作付け前のパイプハウスを利用して、ブロッコリーの3月上旬定植によるハウス栽培を行うことで、4月下旬から5月上旬にかけて早期出荷ができ、出荷の分散化が可能となる。

- (1) 春季のハウス栽培に適した品種は、‘ピクセル’次いで‘おはよう’である。(図1)。
- (2) 低温期の生育確保のためには、不織布によるべたがけ資材の被覆が有効であり(図2)、露地栽培で行われる培土作業を行わなくても収量や品質には影響しない(図3)。

2 期待される効果

- (1) ブロッコリーの早出し栽培の導入によって、冬春季の未利用施設の有効活用とブロッコリー収穫時期の分散化を図ることができる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) 栽培途中の均一な土壌水分の維持は、斉一な生育と収穫時期の揃いに重要であるため、灌水チューブ等を利用した灌水を行う。
- (2) ブロッコリーは25℃以上で生育遅延ならびに花蕾の品質低下となる可能性があるため、施設内気温およびべたがけ資材被覆下が高温になりすぎないように注意する。
- (3) ベたがけ資材の長期間の被覆は、葉柄折れや葉身欠損等による生育阻害を引き起こす可能性があるため、本葉10枚程度までに撤去する。
- (4) 栽培前土壌のECが高い場合は、生育状況に応じて基肥ならびに追肥の施用量を加減することで残肥が残らないようにし、次作の品目の栽培へ影響しないようにする。
- (5) セルトレイで育苗する場合は、連結ポット等の培土容量が多いものに仮植する。

Ⅱ 具体的データ等

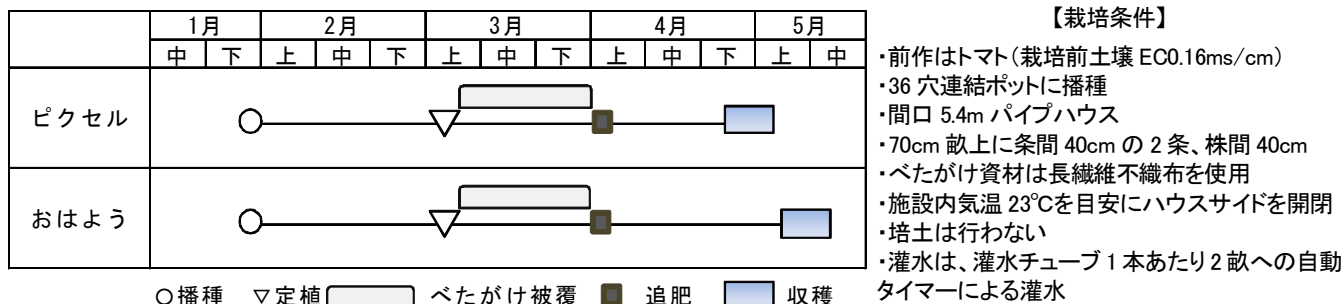


図1 ブロッコリーの冬春パイプハウス栽培の作型図



写真 パイプハウス内でのブロッコリーへのべたがけ被覆(左:2015年3月27日撮影)と収穫直前の草姿(右:同年4月22日)

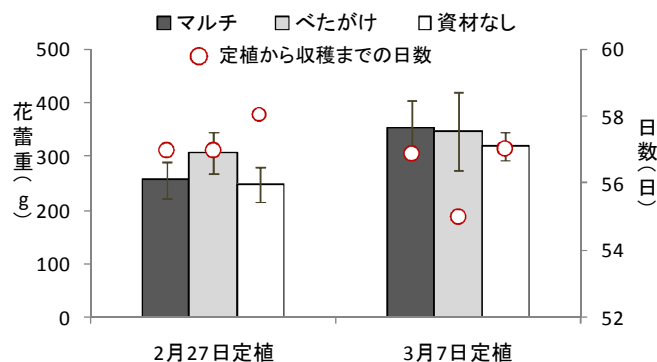


図2 保温資材の違いが花蕾重、収穫日数に及ぼす影響(2014)

※品種は「ピクセル」、マルチ「スミモノーポリ 黒色 厚さ 0.03m」は定植前から収穫まで、べたがけ「パオパオ 90」を定植直後に被覆し、本葉 8~9 枚展開後に撤去(2/27 定植は 3/25、3/7 定植は 4/1 撤去)し、べたがけ撤去に合わせて全区に追肥、株元に培土をした
※図中棒グラフ上のバーは標準偏差を示す

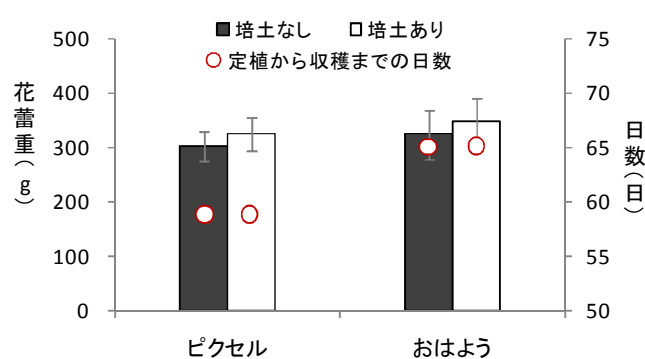


図3 培土の有無が花蕾重に及ぼす影響(2015)

※追肥は a あたり N-0.32、P₂O₅-0.2、K₂O-0.28kg を表層散布し、培土ありは追肥施用後に株元に培土をした
※定植した 3 月 5 日から、べたがけ「パオパオ 90」を被覆し、本葉 8~9 葉期の 3 月 27 日に撤去
※図中棒グラフ上のバーは標準偏差を示す

Ⅲ その他

1 執筆者

小林智之

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成25年度~26年度

(2) 研究課題名 周年出荷体系における冬春期品目の安定生産技術の確立

3 主な参考文献・資料